

# 御田扇祭

山方手永



お迎え 平成21年7月5日(日)

お送り 平成22年7月4日(日)

定国町

素盞鳴神社

## お た おうぎさい 御田扇祭 お迎え、お送りに際して

平素より町内の皆様方には、町運営に深いご理解とご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。

昨年は、10月に大雨・強風などの18号台風による自然災害で、農作物に痛手を負った年でもありました。今年（平成22年）は、トヨタ自動車のリコール問題と云う暗いニュースもありましたが、バンクーバー五輪で浅田真央選手らによるメダル獲得という明るいニュースもあり、私たちの生活に活力を与えてくれています。

そんななか当定国町では、親しみを込めて呼ばれている通称「<sup>おうぎ</sup>扇さん」と云う「<sup>お た おうぎさい</sup>御田扇祭」の御神輿（<sup>おみこし</sup>ご神体）を昨年7月5日に、幸田町の永野神社から、当町の素蓋鳴神社へ13年ぶりにお迎えする事ができ、「<sup>ごしんぶ</sup>御神符と御神輿」など<sup>いぎもの</sup>威儀物一式が一年間大切に鎮座されてまいりました。

扇さんはこの地域「<sup>やまがたてなが</sup>山方手永」と他の地域の「<sup>つつみどお</sup>堤通り手永」のみが現存する独特のお祭りで、全国的にもその類例をみることは無いとも言われています。

世相大混乱の時代もありましたが、歴史と伝統と民族文化につつまれた祭事を、昔の方々は農民のお祭りとして多くの苦難を乗り越え、約400年に亘って伝承されてきましたが、現在では五穀豊穰、家内安全、交通安全などを祈願するようになった伝統的な祭りに変わってまいりました。その祭事を7月4日中村町にお送りしました。13年に一回と云う今日、この日の「<sup>えにし</sup>縁」に感謝して、老若男女を問わず家族そろってお送りできました事を深く御礼申し上げます。

最後に町内の皆様方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

平成21年度 定国町総代 杉浦 豊彦  
平成22年度 定国町総代 近藤 武美



## 御田扇祭の由来

御田扇祭は公式には「皇太神宮御田扇祭」と言い、通称「扇さん」或いは「御田扇祭」とも云う。起源は皇太神宮の御鋤祭りに由来し、御田植え神事に稲の豊作を祈願し「虫よけ」として大きな扇が使用された事による。この神事の形が変わって御神輿<sup>おみこしとぎょ</sup>渡御行列となったものである。「扇さん」の御神輿渡御行列は、岡崎藩五万石、本多豊後守康重が城主として移封された（1601年）ころ、藩の支配体制を整えるため、一万石相当を一グループとして「手永」と称する組織を設け大庄屋をその責任者とした。岡崎藩五万石に矢作管理料として一万石付加され計六万石をもって「六手永」を組織し、各手永に御田扇祭の御神輿行列が行われてきました。

御神輿は毎年一村ずつを渡御し、大庄屋、又は地区の神社に鎮座されました。

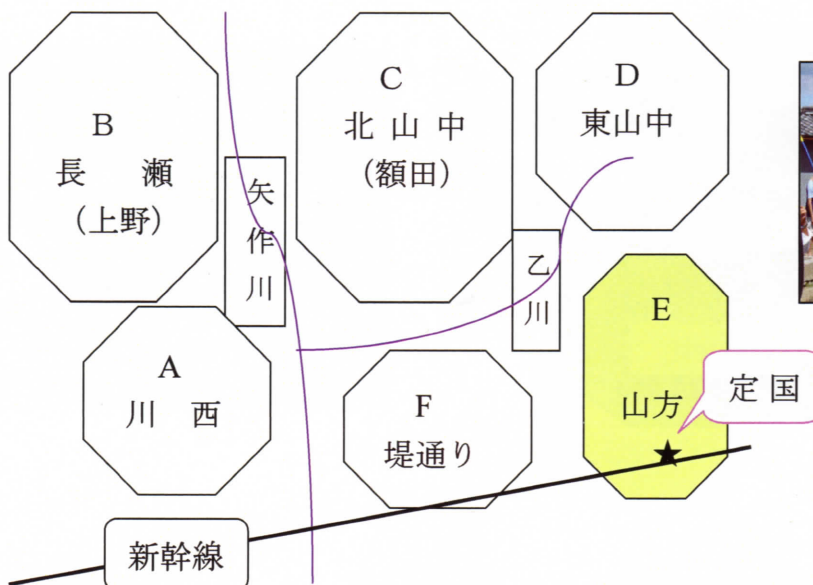
時代によってはその年の内に各村を廻った事もあったようである。しかし時代の変遷により現在では「山方手永」（通称 占部筋）と「堤通り手永」（通称 川東筋）の二地区のみで渡御行列がおこなわれており、他の手永でお祭りが簡素化されたり廃止された所が多い。

当地区は「山方手永」に属し、大庄屋・六名の斎藤家の責任のもと25ヶ村で組織されていたが、諸種の事情により辞退された所もあり、現在では13町となりました。



## 各手永に伝承された御田扇祭

- 川西手永（下佐々木町 太田家）  
 昭和37年に廃止された。それまでは1日に2つの町を回っていた。御神体は、鍬にまねた木の枝と、馬のついた扇である。御鍬祭との関係がある。
- 長瀬手永（上野手永ともいう）（中園町岩槻家、その後阿弥陀堂の伊与田家になる。）  
 第二次大戦までは、阿弥陀堂（現在の豊田市畝部西町）から、7月中旬ころ1日に1町で1ヶ月ぐらいかけて全町を回った。戦後は阿弥陀堂で、この町内だけ回っていた。
- 北山中手永（額田手永ともいう）（藪田町 神尾家）  
 約70年ほど前から行列はしていない。大庄屋のあった藪田町で、田植えの後に神官と町役員で参る程度である。
- 東山中手永（洞町 永井家）  
 1ヶ月ぐらいで、全部の町を回っていた。この形態が御田扇祭の本来の姿かもしれない。しかし、明治の初期からは行っていない。現在は4月中旬の春祭といっしょに行われている。
- 堤通り手永（中之郷町 長嶋家）  
 巡回順序は、中之郷 上青野 高橋 上合歡木 下合歡木 高落 新村 西浅井 東浅井 安藤 福桶 下三ツ木 上三ツ木 下青野 在家 土井 牧御堂 法性寺 宮地 赤渋（20町） 現在も継承され毎年盛大に行なわれている。
- 山方手永（六名町 斎藤家）  
 巡回順序は、針崎 柱 羽根 井内 下和田 国正 正名 永野 定国 中村 坂左右 野畑 若松（13町） 毎年7月の上旬、盛大に行われ神輿は1年に一つの町を巡回するので、この地域は13年に一度『扇さん』を迎えるわけである。



## 素盞鳴神社

素盞鳴神社 神饌幣帛共進指定社 岡崎市定国町字前田三十四番地一

例祭 十月第四土曜日

祭神 素盞鳴命 日良磨呂命 譽田別命

由緒 明治4年村社に確定

当社は往古日久良志占部郷占部山の中腹に鎮座せり。文武天皇大宝二の勸請なりと云う。

後醍醐天皇正中二年己丑の年故有って平地（今の地）に移し奉ると云う。延喜帝より位田八町を賜わる。此の神田より毎年焼米を作り朝廷に献上せしと云う。永久三年六月十五日高倉中宮兼道公より永二百貫御寄付あり、宝徳四年六月十六日渡邊兼綱より鰐口を寄付せらる。

明細帳由緒

当社創立たるや当地日久良志里田畑開発の地主たるを以て大中臣平磨命を祭神とし、大宝二年久良志里東南占部山の半腹に一社を建築し占部天神と称し奉る。神位従五位下位田八町四方言並占部焼米献上す。其の昔碧海郡造の神青櫛彦連白田彦命海陸巡回の頃迄碧海と称唄矢作川東より菱池迄を謂う。此の中人家有る処五カ所あり、之れを回り給う、二三度夕日となり、五度巡るに日も西山に傾き之れに因って日久良志里と号す。其の一占部山の北麗なるを以って占部の郷と称す。一を海童の地たるを以って和田郷と称訓す。一を青草の生ずる処を青野郷と訓す。芦の生ずる処を芦嶋と言ひ、江沼の原を江原と言う。其の他分村あるは皆日良麻呂命字名を以って村名を定め給うなり。前全頭占部の郷と申すは当地なり。中古分離して定國村・正名村・中村・國正村・安藤村五ヶ所村当社氏子也。往古右占部山に御鎮座の処故有って正中二年当社牛頭天皇宮の社に移転す。終に牛頭天皇のみを称し奉る。明治四年に至り素盞鳴神社と改称す。一書に曰 古昔天王社と云えり。文武天皇大宝二年近江國栗太郡縹村鎮座大寶村鎮座大寶天王社祭神素盞鳴命を悪疫流行せしにより平癒祈願の為勸請し、占部郷占部山の中腹に鎮座せりと謂う。

(六ツ美村誌より)



境内  
神社



## 定国町の移り変わり

矢作川の東、占部川と広田川の合流点付近に位置する。地名の由来は、往古郡造の祖が居住しており、郷を定めたという伝説に起因するが、詳しいことは不明。「三河国二葉松」には、渡部忠右衛門の古屋敷が見える。

〔近世〕定国村 江戸期～明治22年の村名。はじめ三河国額田郡、のち碧海郡のうち慶安2年の検地以前に占部村が国正村・正名村・中村および当村の4か村に分かれたことにより成立。ただし「元禄郷帳」「天保郷帳」では当村名は見えず。中村のうちに含まれている。占部4か村の1つ。岡崎藩領。村高は、慶安2年検地高236石余（旧岡崎市史）、宝暦12年266石余（同前）、「旧高旧領」同高。慶安年の田135石余・10町余、畑100石余・8町余。「岡崎藩万書上」では、寛政元年の人口181。「三州岡崎管内記」によれば、山方手永に属し、享和年間の収納定俵352俵余、上納竹小竹5束。東海道藤川宿の代助郷村で、寛政年間の勤高84石、明治元年同岡崎宿の助郷村となり、同2年の岡崎天馬所騒動に参加。寺社は、浄土宗説教所、占部4か村の氏神であった素盞鳴神社、御鋤社。ほかに十王堂があったという。明治15年の戸数36・人口205、耕宅地27町余・山林原野2町余（岡崎市史）同22年占部村の大字となる。

〔近代〕定国 明治22年～昭和37年の大字名。はじめ占部村、明治39年六ツ美村、養蚕とナタネ栽培が隆盛。大正6年の養蚕戸数25。昭和35年の世帯数35農家総数32、農家率91.4%。同37年岡崎市定国町となる。

〔近代〕定国町 昭和35年～現在の岡崎市の町名。昭和40年の世帯数35・人口182。同55年の農家総数28・農家率66.7%。ハウス栽培が盛んになる。同57年市南部学校給食センター完工。同60年公民館新築。

（角川日本地名大辞典より）

現在（平成22年7月4日（日））の定国町農家総数23、農業はオペレーターに委託。非農家総数30。定国町の総人口213。



上空からの定国町



13地区の幟



奉納踊り

お迎え  
幸田町永野神社から



御神輿



渡御行列



永野神社



町境での引継式



直会



奉納踊り

お送り  
中村町占部天神社へ



定国衆



巫女舞



町境での引継式



奉納余興



寿コーナー







渡御行列

皇太神宮御田扇祭受渡

御目録

- 一、御神燈 式本
  - 一、日月旗 壺対
  - 一、雪洞 壺対
  - 一、御幣 壺本
  - 一、御田扇赤白 壺対
  - 一、御神輿 台式台
  - 一、御神桶 壺基
  - 一、花笠 壺本
  - 一、梵天 壺対
  - 一、幟旗 壺拾参本
- 右の通りご座候也
- 平成二十二年七月四日
- 素盞鳴神社氏子総代



1 組



2 組



3 組



## 道中祝い唄



- \* 今日はナー 定国はヨー ヤレヤレー 扇様だヨー  
中村ナー お宮へヨー お立ちですヨー ホラホイ ホラホイ ホラホイ
- \* ここのナー お宮はヨー ヤレヤレー 目出度いお宮ヨー  
鶴がナー ご門へヨー 巣をかけたヨー ホラホイ ホラホイ ホラホイ
- \* 鶴がナー ご門にヨー ヤレヤレー 何と言うてかけたヨー  
お宮ナー ご繁盛とヨー 言うてかけたヨー ホラホイ ホラホイ ホラホイ
- \* 目出度ナー 目出度のヨー ヤレヤレー 若松様はヨー  
枝もナー 栄えてヨー 葉も繁るヨー ホラホイ ホラホイ ホラホイ
- \* お前ナー 百までヨー ヤレヤレー わしゃ九十九までヨー  
共にナー 白髪のヨー 生えるまでヨー ホラホイ ホラホイ ホラホイ
- \* 五万ナー 石でもヨー ヤレヤレー 岡崎様はヨー  
お城ナー 下までヨー 船がつくヨー ホラホイ ホラホイ ホラホイ



いってんとうかい  
一天濤快

粹な男も舞姫も 老いも若きも岡崎へ～  
天下泰平、炎の祈りは 寒空を焦がす滝山の鬼火よ  
重き荷を背負い、長き道をゆく 六所社の宿命の時よ  
千年をも人時雨、ただあなたを待ちこがれ  
浄瑠璃姫の別れ、おお矢作橋の恋よ

※1 ヨイトコサ 三河の魂よ  
ヨイトコサ 忘れずここにあるの  
ヨイトコサ 岡崎山桜  
良いとこさ 咲き誇れ

忠義の華もいつか色褪せると 知りながらさかせ続ける酒井華  
「無」の一文字を掲げて榊原 惚れた者の為、風に還るもの  
我が身に朱を纏い 井伊の魂ただ強く  
夜空の下蜻蛉舞 おお意生地よ本多星

※2 ヨイトコサ 踊ればそれでいい  
ヨイトコサ 歌い続ければいい  
ヨイトコサ 岡崎の舞人よ  
良いとこさ 舞い踊れ

※1, ※2, ※1, ※2





## 日近の里は……

日近太鼓のふる里 岡崎市桜形町は

かつては日近の里といい やまがさんぼうしゅう 山家山方衆

奥平一族の領地として 戦国時代には

日近城と呼ばれる 山城のあったところです。

奥平貞直の代には 徳川家康の

軍勢と一戦を交え 苦戦の末ながらも

勝利をおさめたところと 伝えられております。



## 御田扇神祭 渡御行列隊形

★印の「威儀物」を、当町の素盞鳴神社より占部天神社（中村町）へお送りする 総括責任者 総代 近藤武美

No	威儀物他	担当者	No	威儀物他	担当者
1	道中の禰宜 (道祓いの禰宜)	神主 2名	16	★各町幟 ⑩ 「天照皇大神」 (送る年に新調) (13名)	①定国 ・杉浦喜久次
2	道中清め	定国(定国～中村) 禰宜 中村(引き継ぎ～中村)			②中村 ・市川 康晴
3	★先導(杖)	長老 2名 ・山本 修平 ・山本 博			③坂左右 ・神尾 勲
4	先導役員	長老 1名 ・山本 健児 総代 ・近藤 武美 生産組合長 ・杉浦 民和			④野畑 ・近藤 芳博
5	御田扇役員 (3名)	第2区委員長 ・杉田 亮 第1区委員長 ・野本 幹夫 第3区委員長 ・小嶋 彰			⑤若松 ・小松 宏二 ⑥針崎 ・近藤 政雄
6	★御幣 ④ 1基	・杉浦 秋雄 (1名)	17	★梵天 ⑨ ※上に扇 1対	⑦柱 ・杉浦 新二
7	★榊桶 ⑦ 1基	・山本 道雄 ・山本 宗史 (2名)			⑧羽根 ・山本 久 ⑨井内 ・渡辺 修
8	★高張提灯 ① (御神燈) 1対	・新田 豊 ・杉浦 豊彦 (2名)	18	音頭取り班 軽トラ使用「オーディオ等」 (各班との連携を密にすること)	⑩下和田 ・西川 雅彦 ⑪国正 ・杉浦 強 ⑫正名 ・近藤 達彦 ⑬永野 ・山本 治人
9	★赤扇「山方手永」⑤ 「御田扇神祭」 1本	・磯谷 淳 ・山野 和明 (2名)	19	★子供用雪洞 「交通安全」 「祭」 ★子供用笹 5本(天神社手前で中村町子供会に渡す) (5名)	・太田 茂 ・小柴 賢治 ・河合 則行 (3名)
10	★御神輿(御神符)⑥ ※豊受大神(外宮) 1基	・堀江 秀志 ・近藤 隆久 ・近藤 孝行 ・新田 浩司 (4名)			音頭取り班 ・杉浦 一 ・中村 順一 (2名)
11	★御神輿の台 ⑥ 2基	・山本 覚 ・山本 正行 (御神輿の交代要員を兼ねる) (2名)	20	踊り隊 (No6～20、22は奉納踊りも兼ねる)	・町全員
12	★日月旗 ② (上に銀玉3個、赤幟) 1対	・近藤 学 ・佐藤 英明 (2名)	21	行列参列者 ※幼児は、親が責任をもつこと。 ～以下のメンバーは行列中の適宜の位置に～	
13	★白扇「山方手永」⑤ 「御田扇神祭」 1本	・樋口 陽二 ・太田 剛 (2名)	22	道中警備班 (中村町より派遣)	・消防団 ・近藤 孝 ・交通指導員 ・杉浦 圭一
14	★雪洞 ③ (上に金銀の玉) 1対	・塚田 琢磨 ・島本 義広 ・鈴木 元司 (3名)	23	記録係班	・山本 治男
15	★花傘 ⑧ ※重量あり 1基	・杉浦 政樹 ・山本 愛治 ・杉浦 昇 (3名)	※雨天決行 ※交代要員の必要な1編成 (9から17のうち10、11、12、16は除く) ※目録(威儀物)読み上げ順(①～⑩)		

※服装 男性・・・黒ズボン、白ワイシャツ(但し、3、4、5は上下礼服用)

女性・・・自由。

※男女ともハッピー着用(No7～23)

# 御田扇祭神事推進表（送り側）

開催日 平成22年7月4日（日）

総括責任者 総代 近藤武美

時刻	行事・活動予定	担当係
<b>7月3日（土）</b> 8:00 9:30頃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大提灯たて（3、4組）</li> <li>・しめ縄づくり（1組）</li> <li>・境内清掃、威儀物立てづくり（2、5組）</li> <li>・リハーサル（ハッピ、囃子持参のこと）</li> <li>①行列隊形「威儀物」 ②踊り、道中祝い唄</li> </ul>	(町全員、子供会含)
<b>7月4日（日）</b> 6:00	祝砲・（3発）	(年行司)
8:00	会場作り・・・ 拝殿清掃・神饌品・社務所掃除・拝殿幕張・境内清掃 寿コーナーの設定 （雨天の場合はテント1張り）	(年行司・町全員) (町全員)
10:30	和太鼓（日近）設定と食事（15名位） （雨天の場合はテント2張り）	(町三役、年行事)
12:00	神社全員集合（準備をして）	(町全員、子供会)
12:20	来賓（扇委員3、議員2、小1、中1、保1、JA1）	(町三役)
12:30	祝砲・（3発） 総代挨拶・式典参列者手洗い・出発式典（全員） 交通整理員（4名位）の配置「中村町より」 巫女舞・・・神おろし（御神楽保存会）	(年行司) (総代挨拶、町全員) (中村町消防団) (定国町)
13:30 (30分)	ご神前余興（よさこい、日近太鼓）	(町全員・日近太鼓)
14:00	素盞鳴神社出発（祝砲3発）	(年行司・町全員)
14:20 (10分)	休憩	(旧公民館)
14:30	旧公民館出発	
14:50 (20分)	休憩・2回目余興	(給食センター)
15:10	給食センター出発	
15:20	中村町境着 中村町氏子合流	(定国町、中村町)
天神社手前	子供用雪洞など5基を天神社手前で中村町子供会に渡す。	(定国町子供会から)
15:35	中村町占部天神社着（祝砲3発） 氏子、参列者、子供会などによる出迎え 行列拝殿前整列 お神輿（御神体）本殿に鎮座 威儀物目録読み上げ 威儀物受け取り 参拝者へ挨拶	(中村町) (中村町) (定国町) (定国町) (定国町総代) (中村町総代) (定国町総代)
16:00 (30分)	定国町の踊り・日近太鼓の奉納 お神酒類振る舞い 式典参列者手洗い一整列一拝殿に移動	(定国町) (中村町) (中村町副総代指示)
16:30	占部天神社式典（祝砲3発） 宮司祝詞 玉串奉奠 定国町は様子を見て・・・	(中村町) (宮司) (関係者 別紙)
17:30	直会 神職・扇委員長・中村町総代挨拶 会食 後片付け 解散	(年行司他) (神職、扇委員長、総代)

※ 日近太鼓は14:00から中村町へ移動開始  
15:30までに中村町に太鼓の設置。  
・余興時間まで休憩  
(中村町接待、15名位と人数分の駐車場の確保)



御田扇祭 役割分担表

総括責任者 総代 近藤 武美

役割 (責任者)	準備	期間	当日 (7月4日(日))		担当													
			朝の準備 (午前8時)	式典時														
1 渉外班 (副総代) ・山本 道雄	・道徳使用許可の申請 ・伊勢神宮の御神符を拝受 (御神符は山本健児、近藤武美が拝受)	7月3日(土) 午前8時から	・日近太鼓の設定と接待 (15名位) ・来賓の接待 ・神事一式 ・来賓の接待 ・花火の打ち上げ(午前6時、午後2時の2回) ・出発時の準備と点検 (威儀物など)	・参列者の案内 (副委員、議員他) ・式典に参加 ・式典	・山本 宗史													
2 式典班 (神社総代) ・平岩 照司	・神事一式 ・花火の講習		7月3日(土) 午前8時から	・威儀物の点検、修理など準備 ・渡御行列隊形の順序・整理	・式典に参加 ・隊形の順序・整列 (出発時)	・渡辺 修二・市川 瓜子・太田 晃子・山本 愛子 ・山野 恵美・「顧問」山本健児(式典指導、渡御行列に参加有) (年行司は渡御行列には参加無。但し1名は日近太鼓の道案内) ・山本 宗史・杉浦 民和・杉浦 豊彦・杉浦 一												
3 進行班 (副総代) ・山本 道雄	・威儀物の点検、修理など準備 ・渡御行列隊形の順序・整理			7月3日(土) 午前8時から	・祝い唄、踊りの指導 ・夜間照明の設定等 (アンブは総代が手配)	・式典に参加 ・踊り ・祝い唄 (出発時)	・中村 順一・堀江 秀志・新田史津香・杉浦 里美 ・樋口 洋子・近藤なつ子・島本 和美 (・平岩照司、杉浦秋雄は唄の指導)											
4 余興・音頭取班 (生産組合長) ・杉浦 民和	・クローラーの手配 (軽トラ積載) ・飲食物の手配 (会計班と相談)				7月3日(土) 午前8時から	・クローラーの手配 (軽トラ積載) ・飲食物の手配 (会計班と相談)	・式典に参加	・堀江 秀志・太田 剛・新田史津香・杉浦 里美 ・樋口 洋子・島本 和美 ※渡御行列休憩場での飲食物の接待、ごみ処理等										
5 接待班 (女性部) ・近藤 なつ子	・奉納余興の練習時における怪我人、体調不良者への気配り					7月3日(土) 午前8時から	・奉納余興の練習時における怪我人、体調不良者への気配り	・式典に参加 ・爆竹などによる火災、怪我等の気配り (救護班との連携を密にすること)	・近藤 孝(消防の上着)・交通指導員2名 [ 交通整理は中村町より4名位派遣あり ] ・近藤 孝・杉浦 圭一									
6 道中警備班 (消防団) ・杉浦 圭一	・奉納余興の練習時における怪我人、体調不良者への気配り						7月3日(土) 午前8時から	・奉納余興の練習時における怪我人、体調不良者への気配り	・式典に参加 ・怪我人、体調不良者の手当て (道中警備班と連携を密にすること)	・近藤 孝・杉浦 圭一								
7 救護班 (婦人自主防災) ・伊藤さとみ	・奉納余興の練習時における怪我人、体調不良者への気配り							7月3日(土) 午前8時から	・奉納余興の練習時における怪我人、体調不良者への気配り	・式典に参加 ・アンブ、クローラー ・式典に参加 (余興班と連携を密に)	・山本 道雄・山本 宗史・杉浦 民和・杉浦 豊彦 ・杉浦 強 ・山本 敦子・山本勢津子・伊藤さとみ ・中村 順一(アンブの使用) ・山本 治男							
8 車両班 (土木係) ・杉浦 一	・車両の手配 ・車両への装飾(紅白の幕等) (木工作业あり)								7月3日(土) 午前8時から	・車両の手配 ・車両への装飾(紅白の幕等) (木工作业あり)	・式典に参加 ・記録と写真撮影	・町全員						
9 記録班 (山本 治男)	・記録と写真撮影の準備 (デジカメ、ビデオは総代有)									7月3日(土) 午前8時から	・記録と写真撮影	・式典に参加	・杉浦 扶佐子・樋口 陽二・近藤 政雄・島本 義広 ・伊藤さとみ					
10 境内班 (相談役) ・杉浦 豊彦	・帰着後神社に集合して後かたづけ										7月3日(土) 午前8時から	・各班への手伝い	・式典に参加	・杉浦 一 ・山本ゆかり・山本真奈美・杉浦 圭子				
11 寿コーナー班 (老人クラブ代表) ・杉浦 強	・来賓、寿の案内状送付(総代手配) (寿は7月4日付けで75歳以上) ・お茶、お菓子の準備											7月3日(土) 午前8時から	・テーブル、椅子の設定(受付の用意) (雨天の場合は雨バージョン班と連絡をとること)	・式典に参加 ・来賓、出席者への受付と接待 (雨天の場合は雨バージョン班と連絡をとること)	・杉浦 強 ・杉浦 扶佐子・樋口 陽二・近藤 政雄 ・島本 義広・山本真奈美・杉浦 圭子・伊藤さとみ			
12 慰労会班 (相談役) ・杉浦 豊彦	・評議員と相談 ・境内班終了を見計らって準備												7月3日(土) 午前8時から	・各班への手伝い	・式典に参加	・杉浦 一 ・山本ゆかり・山本真奈美・杉浦 圭子		
13 お神楽班 (お神楽・山野 和明) (子供会・山本 愛治)	・巫女舞「神おろし」の練習(2名)													7月3日(土) 午前8時から	・会場の設定 (行列に参加出来るように替える)	・式典に参加 ・巫女舞は13:30に終了	・太田 剛・近藤 孝・杉浦 圭一	
14 雨バージョン班 (体育委員・正) ・堀江 秀志	・天候次第で小学校からテント2組借りる(総代事前連絡)														7月3日(土) 午前8時から	・雨天の場合 3組張ること	・式典に参加	・山本 道雄
15 会計班 (会計係) ・山本 宗史	・各班と連絡を密にして予算執行に努める ・練習人数分のお茶の手配															7月3日(土) 午前8時から	・各班への手伝い ・参加人数分のお茶、ビール、オーブールなどの手配	・式典に参加

御田扇祭 平成22年記念誌

発行日	平成22年7月吉日
記録係	山本 治男
編集	近藤 武美
印刷	ブラザー印刷株式会社